研究対象者等に通知し、又は公開すべき事項（情報公開用）

申請番号： 20-076

① 試料・情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）

・研究課題名： 骨盤内リンパ節郭清術における後腹膜腔アプローチ時の腹壁切開法と腹直筋萎縮・麻痺との関連

・目的： 臓器転移などの遠隔転移のない皮膚がんの治療は手術が第一選択です.、皮膚がんが発生した場所に近いリンパ節に転移した場合、リンパ節郭清術が行われます。特に下肢や下腹部に皮膚がんが生じた場合、転移する可能性のあるリンパ節は同側の鼠径部、骨盤内のリンパ節となりますが、骨盤内リンパ節の転移が否定できない時は鼠径、骨盤内両方のリンパ節郭清が行われます。しかしながら、皮膚がん治療の一環として行われる骨盤内のリンパ節郭清は施設毎に様々な術式で行われており、標準術式は確立していません。特に骨盤内リンパ節に到達するための腹壁切開法には複数の切開法があり、それぞれ利点・欠点があります。手術中の操作がやりやすいものの術後に腹筋が弱くなり、ヘルニアを生じやすくなると解剖学的に考えられる切開法から、逆に腹筋は保たれるものの、手術中の操作がしにくい切開法もあります。しかし、個々の患者さんのデータを集積し、それに基づく理論的な根拠をもっていずれの切開がより適切かは依然として調査されていません。

そのため、当科でこれまで皮膚がん治療の一環として骨盤内リンパ節郭清術を受けた患者さんについて各腹壁切開法による腹筋の麻痺、ヘルニア発生の状況を調査することで適切な腹壁切開法につき検討し、今後の腹壁切開法の指針を得ることを目的とします。情報は個人を特定できないようにしてから解析します。

・研究期間：病院IRB承認日 ～ 2022年3月31日

・研究対象：2007年4月1日 ～ 2020年5月25日

② 利用し、又は提供する試料・情報の項目

： 診療記録、検査データ

③ 利用する者の範囲

：医師

④ 試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

： 中村泰大（埼玉医科大学国際医療センター皮膚腫瘍科・皮膚科）